

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学

令和2事業年度の業務実績に関する

項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和3年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

大項目評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、25項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講3年目を迎え、芸術系、人文系各学科から270名が受講し、46名が2年間の所定の履修を修了したこと。
- ③就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムと進路支援室と各学科の連携によるきめ細かな面接・相談等を行った結果、就職率は98.3%、進学率は100%と、昨年度を上回る水準を維持していること。
- ④県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、県内各地域をフィールドに文化活動や地域づくりプログラムに学生が参加するなど、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○教育の内容及び到達目標

- ・芸術系と人文系の学科を併設する本学の特色を活かした全学横断型「アートマネジメントプログラム」は3年目を迎え、5科目において全学科から延べ270名が受講し、修了した46名に認定証を授与した。
- ・学科ごとに「期待される学修効果」の点検及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの検証を行い、美術科で、学生にルーブリック評価表で学修目標を示した。また、情報コミュニケーション学科の卒業研究においてルーブリック評価を継続実施した。
- ・美術科デザイン専攻において、アート思考への需要の高まりに応じて新たにグラフィックアート分野の教員採用を決定し、公募の準備を進めた。
- ・音楽科では、音楽基礎科目（音楽理論、和声学）における教育の質を高めるため、科目等履修生の受け入れを廃止することとした。
- ・国際総合学科において、成績の評価項目と基準作成に着手し、評価細目の設定のための研修を実施した。
- ・情報コミュニケーション学科で、「地域ビジネス」科目群を整理し、観光ビジネス論と少子高齢社会論の科目配置を変更した。

○教育の実施体制

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、本学のもつ情報及び映像の専門性を最大限活用し、前期の授業開始時からオンライン授業の実施体制を整え、円滑に実施した。一方で、美術や音楽など実技系の授業においては、感染防止に努めながら対面授業を継続して実施した。
- ・各学科及び専攻科においてカリキュラムマップ（科目と到達目標の関連性を示したもの）を活用し、カリキュラムの点検・評価を行った。また、FD・SD推進室で集約し、情報共有を図った。
- ・美術科で、フィールドワークを通じた地域課題を臼杵市や竹田市に提案したほか、災害時に活用できる事業について企業と協働した成果が全国で表彰されるなど、デザインの専門性を活かした取組を展開した。

○地域社会への貢献

- ・県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施した。九州乳業製品のパッケージデザイン、大分県民芸術文化祭ポスターの制作、「滝廉太郎の音楽帳」への出演
- ・全学科共通科目である「サービスマーケティング」において、県内各地域をフィールドに文化活動や地域づくりプログラムに学生が参加した。
竹田市とうきび収穫・加工支援、竹楽プロモーションビデオ作成、野津原遊歩道整備活動、鶴崎地区魅力情報発信、大分駅前ポルトソール通りデザインプロジェクト など

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教育	12			4	8
研究	6			3	3
社会貢献	6			4	2
その他の目標	1			1	
合計	25			12	13

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- アートマネジメントプログラムは芸術系と人文系とが共存するという本学の特異性が生かされたプログラム。3年目を迎え実績が上がってきていることは十分に評価できる。今後更にこの特異性を際立たせ、対外的にも周知を図ることで学生募集にも一層役立てていただきたい。
- 3年目を迎えた「アートマネジメントプログラム」の定着化等、時代の潮流に対応した教育内容と実地体制の改革が、結果として、就職率・進学率の高水準維持や志願者の高水準維持に現れており、大いに評価できる。
- アートマネジメントプログラムの優れたアウトプット評価（結果数値）は了解できるものの、アウトカム（内容成果）として2年修了した46名の社会的ニーズとの就職・マッチングや活躍・活動の内容を把握していく必要がある。今後、着実に卒業生の輩出、および卒業生へのさらなるフィードバックや大学からのサポートやアフターケアが行われることで、さらなる現場での成長を見守ることもできる。大きな「強み」として卒業後育成へも関心を向けていただきたい。
- 就職率・進学率は昨年度を上回る実績。高く評価できる。
- 県立の教育機関として、大分県の地域社会への貢献に加え、各種団体・企業との連携にも積極的に取り組んでおり十分に評価できる。
- 社会情勢の変化や地域社会における教育ニーズを的確に把握し、関係機関との連携を図り、実践を通しての体験的・主体的学習活動の各学科の取組は着目すべき点である。
- コロナ禍において、教育の特徴を踏まえ、徹底した感染予防対策により対面授業を継続し、また、遠隔授業に変更した場合においても、教育の質を担保している実績は重要な点である。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②学内会議や委員会の活性化を通じマネジメント強化を図るとともに、教育目的が達成されるよう、教職員の人材育成と計画的な教員採用について検討を行ったこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制
- ・新理事長・学長をはじめとする幹部会議を定期的で開催したほか、学科長や専門委員長との協議を行い、迅速かつ機動的な意思決定を行った。新型コロナ対応では、危機管理対策本部体制のもと、組織的な対応と情報共有を行った。
- 人事の適正化
- ・特任教員の退官等に伴い、令和3年4月の4名の教員採用（美術1、音楽2、情コミ1）について公募を行い、優秀な人材を確保した。
 - ・人材育成のため本学採用の事務職員の異動及び事務分掌を見直したほか、外部研修へ派遣した。
- 業務の選択と集中
- ・予算と人的資源を最大限に生かして大学経営を行うため、選択と集中の観点から、①大学の魅力アップ、②社会貢献、③人事の効率的運用、④施設整備の4項目を定め、取組を加速した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	3			3	
人事の適正化	3			2	1
事業の選択と集中	1				1
合計	7			5	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 運営体制、人事の適正化、業務の選択と集中のための4項目への取組と順調に取り組まれている。
- 公募する教員の専門分野の決定が、どこまで見据えた「将来」なのか、どのような議論を尽くされたのか、背景にある地域課題やニーズの捉え方は妥当だったのか、は実際の公募を進め、人材が選抜された後にわかってくるという、やや旧態依然とした公募になってはいないかと考える。一例だが、国立大学法人への文科省の改組指導は手厳しい。流動的な時代の動きやニーズに呼応するよう、5年修正、10年作り替え、を突きつけられる。県立大学のミッションを考えた場合、流動性や時代呼応性より地に足をつけた大学のあり方が必要かもしれない。情報コミュニケーション学科の科目配置も効果発現を検証しながら微調整が必要になるものと思われる。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②キャンパス整備に合わせた省エネ効果の高い機器の導入や新設した音楽ホール等全施設の貸付け方法について、地域貢献などの観点も踏まえ、貸付基準や料金等を見直し、適用したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○事務等の効率化及び経費の抑制

- ・教職員に対し経費削減を意識付け、夏季の軽装運動と冬季のウォームビズの呼びかけなど、節電に努めた。また8月の一斉休校日の実施、キャンパス整備に合わせた省電力機器の導入により、電力消費の抑制に努めた。

○自己収入及び外部資金の獲得

- ・オープンカレッジの個人レッスン講座において受講料チケット制を導入し、確実な収入の確保と事務の効率化を図った。
- ・新設した音楽ホール等について、外部貸出の方法や条件を見直し、2年度からスタートさせた。
- ・科学研究費等外部資金獲得に向けて、事前研究を支援する独自の研究費特別枠の創設や、事務職員による事務手続きの支援など体制を整えた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
事務効率化 ・経費抑制	2			1	1
自己収入・外部 研究資金の獲得	3			3	
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	8			7	1

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 自己収入の増強という面では個人レッスンでのチケット制の導入や、新施設の貸付基準や料金体系を見直したことは評価できる。また、外部資金の獲得の面では研究費特別枠の実績が前年を上回ったことも評価したい。
- 経費抑制という面では電力契約の見直しによる電気代削減は評価できる。加えて、コピー用紙等の事務用品等の経費削減にも今後引き続き努力されたい。
- 省エネ効果の高い機器の導入、音楽ホール等施設貸付基準や料金の見直し、外部研究資金獲得に向けた準備と順調に取り組まれている。
- オンライン授業や会議の実施によりペーパーレス効果が生じなかったか疑問に思う。
- 適切に改善されている。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、3項目のすべてがⅢ（順調に実施している）であること。
- ②マスメディア等の様々な媒体を活用し、積極的な広報を展開したこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

○情報公開や情報発信の推進

- ・広報誌を年4回発行したほか、県政記者クラブ等を通じた報道各社への情報提供、公式 SNS との連携を強化した。
- ・本学の教育・研究の成果を広く社会に還元する芸短フェスタ 2020 を開催し、演奏会や展示会など 37 イベントに多くの県民が参加した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	1			1	
情報公開 ・情報発信	2			2	
合計	3			3	

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 今後もホームページや SNS を充実させて、積極的に情報発信してほしい。
- 自己点検・評価及び情報の発信に関しては、適切に進められている。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、6項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②最終年度となったキャンパス整備事業について、学修環境と安全の確保に最大限配慮しながら取り組み、安全かつ着実に工事を完了したこと。
- ③オンライン授業やオンライン学内会議について、セキュリティ上の安全性を確保した上で、学生及び職員への研修・振り返りを重ね、スムーズな運用を行ったこと。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
 - ・キャンパス整備工事は最終年度を迎え、事業関係者間で緊密に連携を図りながら、安全かつ着実に工事を完了した。この間、授業への影響を最小限に抑えながら、美術科、事務局の学内での引越を円滑に行った。
- 大学の安全管理
 - ・全学を挙げて新型コロナ対応に最優先で取り組み、感染防止に努めた。
 - ・「防災・業務継続計画(BCP)」に基づき、緊急メールの通信訓練と地震や火災を想定した防災訓練を実施した。
- 情報セキュリティの確保
 - ・オンライン授業やオンライン学内会議のツールとして導入した「C-Leaning」及び「Zoom」について、セキュリティ上の安全性を確保した上で、学生及び職員への研修・振り返りを重ね、スムーズな運用を行っている。また、教職員全員を対象として情報セキュリティ研修を開催した。
- 人権尊重の推進
 - ・学生に対しては、人権に係る授業科目を設定し、外部講師による講演を行うなど、人権に関する内容を深めた。また、人権相談窓口を知らせるチラシを作成し、学内に掲示するとともに、メールによる周知を行った。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備と活用	2			1	1
安全管理	1				1
情報セキュリティ	1			1	
人権尊重の推進	2			2	
合計	6			4	2

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 大勢の学生の学業生活を預かる大学として新型コロナへの対応は大変だったと思う。
- キャンパス整備事業が予定通り 2021 年 3 月に完了したことは大いに評価したい。
- キャンパス整備が完了し今後の活用を期待する。
- 現在、わが国の大学では学生への 3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）保障は言うまでもなく、高大連携を前提とした高校卒業や進学希望者を確保するため、適切なアドミッション・オフィスも欠かせない。
- 障がいをもつ学生への合理的配慮が求められる時代になっている。そのため最善の努力を生み出す必要がある。とりわけ、この項目では、コロナ禍対策を示しておく必要はなかったか、再考されたい。コロナ禍での感染防止拡大のため学生が在宅オンライン授業を余儀なくされる中、カリキュラムのあり方にも再考が求められる。大分県立看護科学大学では、授業資料の複写と配布を通して、学生の印刷負担の軽減に加えて、危機管理の中での学生への親身に立った気配りや心のケアとも言えるサポートを通して多大なる大学側からの配慮がなされていたが、そのような取組も参考になるだろう。
- コロナ禍にもかかわらず高い就職内定率もさることながら、進学合格率 100%は並大抵のことではない。こうした結果が、学生のさらなる主体性を導き、困難な挑戦へ臨んでいく機運づくりになるのであれば、心から評価する。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を順調に実施している。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、全学横断型の「アートマネジメントプログラム」が開講3年目を迎え、芸術系、人文系各学科から270名が受講し、46名が2年間の所定の履修を修了など、新たな学修の展開を引き続き推進するとともに、就職・進学それぞれに対応した進路支援プログラムと進路支援室と各学科の連携によるきめ細かな面接・相談等を行った結果、就職率は98.3%、進学率は100%と、昨年度を上回る水準を維持していること。また、県内各地域、各種団体、企業との協働による制作・発表活動、地域支援活動などを実施するとともに、県内各地域をフィールドに文化活動や地域づくりプログラムに学生が参加するなど、地域に開かれた大学として地域社会へ貢献する取組を進めていること。
- ③ 新型コロナの影響を受けながらも、学生及び教職員が感染防止策に一丸となって取り組んでおり、学内においては、理事長のもと組織的な対応を行っている。授業においても、各学科の特殊性を勘案しつつ、実技を伴う芸術系学科は感染防止を徹底した対面授業を、人文系学科では、講義をオンラインに切り替えて実施するなど、臨機応変の対応が取られ、その結果、期間内に所定の教育を終えたこと。また、6年間にわたるキャンパス整備事業を無事完了させ、教育研究や社会貢献などに新施設を活用していること。

<委員会からのコメント>

- コロナ禍でありながらも、就職率・進学率が前年度よりも改善したことは高く評価できる。
- コロナ対応として対面授業とオンライン授業とを柔軟に使い分けて実施し、所定の教育水準を維持したことは評価できる。
- 新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、計画を順調に達成している。
- 新型コロナウイルスの影響を受けながらも、臨機応変な対応の結果、コロナ前と変わらぬ取組、効果があったことは評価できる。
- コロナの感染状況にもよるが、落ち着き次第、キャンパス（特に音楽ホール）を解放し、地域により開かれた大学となって欲しい。
- キャンパス整備事業が予定どおり 2021 年 3 月に完了したことは評価できる。
- 今後の最大の課題は少子化に伴う優秀な学生の確保。そのためには、芸術系の質の向上を図る一方、本学の特色である芸術系・人文系の共存を生かしたアートマネジメントプログラムを更に魅力あるプログラムに進化させていくとともに、サービスラーニングをはじめとした地域貢献活動を幅広くかつ息長く実施することにより、本学らしさを更に追求して、魅力ある大学の構築に努力していただきたい。
- 大分県芸術文化スポーツ振興財団との連携もうまく行っていると思う。
- 地域貢献に果たす役割として、芸術文化・地域創造の発展に貢献している大学としての姿勢及び実績は大いに評価できる。
- キャンパス施設整備の完了に伴い、本学の更なる発展を期待する。
- 芸術系・人文系、各学科の強みを生かした共通教育及び専門教育を通して、国際化・情報化、さらに地域での活動に取り組みながら、大分県全体の芸術文化水準の向上へ貢献し、県民が芸術文化に触れ合える機会を提供しており高く評価できる。短大特有の適材適所へ人材を輩出していくためのキャリア教育も欠かせない。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり